

未知の魚を求めて

先般、鹿児島湾、錦江湾に生息する、あるいは発見された魚を紹介した写真図鑑「火山を望む霧海※鹿児島湾の魚類」が発行されました。まるで生きた魚をそのまま見ているような鮮明な写真にとっても驚かされる図鑑です。

図鑑をまとめられた鹿児島大学総合研究博物館の館長で教授の本村浩之博士にお話を聞きました。

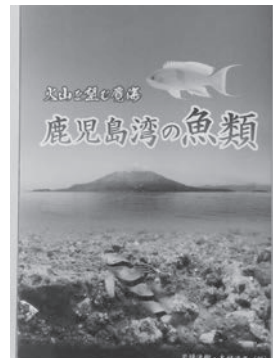
※「霧海」の「霧」は「文字で「鹿児島」を意味します」

最初に、今回発行された本について簡単に紹介してください。

これまでの調査で鹿児島湾にはおよそ1000種類の魚が生息していることが分かりました。日本全体でも記録されている魚は4000種ですから、鹿児島湾における魚類の豊かさが分かると思います。今回の図鑑ではおよそ500種をカラー写真で紹介しています。

全国にアピールできる、鹿児島湾の魅力はなんですか。

鹿児島湾は深海魚と浅海魚が同じ場所でみられるかもしれません。先生にとつて魚を研究する魅力はなんですか。



海や川の中には未知の世界

ア、フィリピン、屋久島三島村、与論島、鹿児島湾、内之浦などの魚の図鑑を発行しました。他にも、鹿児島大学、パリ大学、ASEAN諸国の学生や若手研究者の指導をしたり、NHKや民放の生き物番組の編集や構成に関する助言や解説、学研の子ども用魚図鑑の監修、国際自然保護連合のレッドリスト（絶滅危惧種）評価や国際会議の運営などをしたりしています。

子どもの頃から生き物の研究者になりたいと思つており、文集には、将来の夢として恐竜学者、昆虫学者などと書いてあります。小学生のころは毎日、化石発掘や昆虫・甲殻類・魚の採集をしていました。特に田んぼの脇にある濁った用水路に手網を入れて、何が入っているか水路から引き上げる瞬間が大好きでした。今でも未知の魚を求めて実施するフィールド調査時には、少年時代の気持ちに戻れます。

どんなアドバイスをしますか。

最後に、先生がこれからやってみたいこと（めざしていること）は何か教えてください。

魚の調査研究で海外に行く機会も多岐にわたりますが、どんな国に行かれますか。

もし先生が、何かの「博士」になりたいという子どもさんの親だったら、その子どもさん

現在の子どもや若者へ、何かアドバイスをお願いします。

「博士・学者」は、子どもたちの将来になりたい職業で男の子の第一位であるとテレビ等で紹介が

現在の仕事は、子どもたちから見れば「魚の博士」ということになるかと思いますが、どんなこと（仕事内容等）をされているのですか。

アツヒメサンゴカサゴ

インターネットやゲームに時間を費やしているせいなのか、この頃、長い日本語が正しく書けないとか、教科書や漫画以外の本をあまり読まないという若者を見ることがあります。まずは子どもたちには正しい日本語を身に付けてほしいと思います。そのためにも普

段から読書する習慣を付けてほしいと思います。

また、これまでにタイ、マレーシア、インドネシ

博士になりたいと考えて

先生はどんな子ども

ありがとうございます。